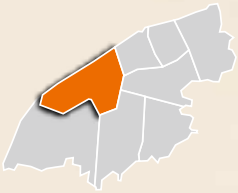


Nishi

西区

P209-P217

新潟市民の文化遺産（ぶんかいさん）ガイドブック

有形文化遺産

MAP013

おたてはちまんぐう

緒立八幡宮

西区黒鳥5996

緒立八幡宮周辺には緒立遺跡・的場遺跡などがあり縄文・弥生時代から人々が住んでいて豊かな暮らしをしていたと新潟市の歴史博物館の資料文献にも記載されています。

その遺跡として知られる緒立には古墳があります。その上に建つのが緒立八幡宮です。古墳は直径約30mで4～5世紀の円墳といわれています。

神社の創立年は不詳ですが、平安時代に源義綱に討伐された黒鳥兵衛が、頭と胴を両断されて宮に埋められているとも言われています。さらに黒鳥兵衛の人物像が善人か悪人かの論争等もあり、その謎に包まれている不確実性が古代ロマンの息吹と伝説を醸し出しています。

また、江戸時代後期には境内の敷地内から鉱泉が湧き出て、皮膚病に効く霊水の温泉地として賑わいました。時を経た今でも鉱泉は尽きることなく、福祉センター黒埼荘で緒立温泉として親しまれています。

<開催時期>

緒立八幡宮春季例大祭:
4月14日

緒立八幡宮秋季例大祭:
宵宮 8月25日・本祭 8月26日

推薦団体 黒鳥自治会

有形文化遺産

MAP013

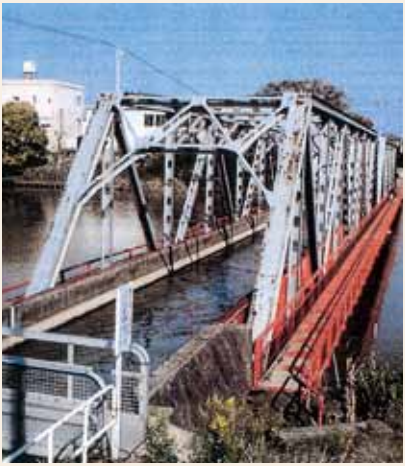
西川水路橋

にしかわすいろきょう

西区槇尾と高山に架かる

江戸時代最大級の立体交差工事（底桶）から三代目の施設。

川と川の立体交差として広くその名を知られる新川。この新川は、西蒲原地方の悪水を抜くため江戸時代後期、6万両と延べ365万人もの農民によって掘られた人工の川です。現在も西蒲原の大半の排水を一手に引き受けて、汚れた川になっています。しかし昭和30年代までは、この川で釣った魚を食べたり、子どもたちが川で泳いだりする様子が見られました。越後新川まちおこしの会は、この様な「泳いだ、食べた新川」にしたいとの願いから、平成19年（2007）2月より啓蒙活動やゴミ拾い美化活動もしています。



橋（西川）の下を新川が流れている

春と秋には新川堤防のゴミ拾い、夏には川下りが行われます。

推薦団体　越後新川まちおこしの会

有形文化遺産

MAP013

板井の釈迦堂（いたいのしゃかどう）

西区板井浦田地内

7～800年前から釈迦堂周辺に石塚、中村、深水の三集落がありました。石塚集落がある日突然消滅した伝説があり、この亡霊を慰めるための石堂が釈迦堂の始まりです。現在の板井集落が形成される基になっている地域であり、板井の歴史をひもとく上で貴重な場所に建つ釈迦堂です。

改修前の釈迦堂

推薦団体　板井総自治会

有形文化遺産

MAP013

いたいじんじゃなかはいでんのてんじょうえ

伊多井神社中拝殿の天井絵

西区板井37

伊多井神社拝殿　奥の部屋の天井に絵が描かれています。

伊多井神社中拝殿の天井3.6m四方を36面の正方形格子状に区画し、花鳥が描かれており慶応3年(1867)芳邨写と記されています。素朴な天井画で一見の価値あるものです。

推薦団体　板井総自治会

西区

有形文化遺産

MAP013

きばはちまんぐうはいでんおよびほんでん

木場八幡宮拝殿及び本殿

西区木場149

慶長4年(1599)の村々志色書帳(米沢図書館蔵)に、木場八幡宮を木場集落の氏神様として祀ったことが記されるなど、歴史と伝統を誇る由緒ある神社となっています。八幡宮本殿にあっては、新潟市の指定文化財として登録されています。

<開催時期> 木場八幡宮元日祭:1月
春季大祭:4月　秋季大祭:9月

推薦団体　木場連合自治会

無形文化遺産

木場の棒踊り

きばのぼうおどり

西区木場地内

上杉景勝の会津移封に伴って木場城が廃城されます。木場の棒踊りは、廃城後に農民達が武道の型を練武の踊りに託して天下泰平五穀豊穣を祈願して伝えられたと言われています。なお、木場の棒踊りは新潟市の無形民俗文化財に登録されています。

推薦団体　木場連合自治会

無形文化遺産

あかつかだいだいかぐら
赤塚太々神楽

西区赤塚（赤塚神社）

毎年4月15日の赤塚神社・春季大祭で、小学生4名による稚児舞いと、太々神楽が奉納されます。太々神楽の最後は大黒（大国）舞いで、お菓子をまくため、子どもたちに人気の舞いです。

稚児舞いは平成に入り諸事情で途絶えましたが、復活を望む地域の協力のもと、平成22年（2010）4月に復活し、赤塚神社・春季大祭で奉納されるようになりました。

＜開催時期＞ 宵宮:4月14日19:00～
本宮:4月15日13:00～
神迎え:11月29日19:00～

推薦団体 赤塚伝統芸能保存会

無形文化遺産

伝統芸能 大野甚句

でんとうげいのう　おおのじんく

西区大野町

「大野甚句」は、江戸時代（宝暦の頃）より新潟市西区大野町（旧黒埼町）周辺に伝わる盆踊りの唄です。昭和の頃まで、大野町だけでなく、鳥原・金巻・小平方、また現南区の鷲ノ木・塩俵といった地域でも、同じこの「大野甚句」で盆踊り大会が開かれていました。また、その歌詞の中には、「弥彦山から吹き降ろす風は、大野、繁盛と吹き降ろす」「大野の船頭さんに積ませたい」など、蒸気船の発着場もあり大層賑わっていた大野町を物語る言葉があります。

今では、娯楽の多様化、大野町の商業の衰退等で、この唄で盆踊り大会が開かれているのは大野町のみです。さらに、近年は地方（じかた）の高齢化と後継者の不足で存続の危機を迎えていました。

平成24年（2012）、このままでは後世に残せないという強い思いから大野小学校の子どもたちに声をかけ、大野町の枠を超え、子どもたちの力を借りて、笛・太鼓・唄の伝承活動が始まりました。

<開催時期>9月1日

推薦団体　大野甚句保存会

memo